



博士課程から企業への就職について

東北大学金属材料研究所 博士課程3年
木村博充

1. はじめに

私は、現在(博士課程3年)東北大学金属材料研究所の結晶材料化学研究部門(宇田聡教授)に在籍し、酸化物結晶成長のメカニズムに関する研究を行っています。来春からは、化学メーカーへ就職することになりました。よくある話にはなりますが、本稿を通して、私が学部から修士、博士課程を経て、企業へ就職するに至った経緯を紹介させていただきます。

2. 学部から就職までの経緯

学部時代は、東北大学理学部化学科の無機化学研究室に在籍し、有機金属錯体の合成と反応性に関する研究を行いました。しかし、当時は研究に興味を持つことができず、また、企業で働くことに魅力を感じていなかったため、卒業後は企業に就職したいと考えていました。いざ就職活動が迫ってきた時期に、当時の研究室の先輩に研究の面白さを熱く語られ、また、同期の8割以上の人達が修士課程へ進学するという周りの雰囲気にもまれ、私も修士課程に進み、もう少し‘研究’を味わってから企業に就職しようと思い直しました。

修士課程からは現在の宇田研究室に移り、バルク結晶成長に関する研究を行うことになりました。私の修士課程での研究テーマは、「新型圧電材料の平衡状態図の確立、単結晶の育成、電気特性評価」です。研究内容が学部時代と全く異なり、わからなくて当然の状態からスタートできたため、初歩的なことでも「わかりません。教えてください。」と堂々と言える立場だったことは大変良かったと思います。先輩や先生方から御指導を頂きながら、新規材料の状態図を調べ、結晶

を育成し、物性を測るといった一連の研究を行うことができました。

進路の方は、修士課程へ進学した当初から「修了後は就職します。」と教授に宣言していました。というのは、博士課程の研究は、専門知識が高まる一方、研究する分野の範囲が狭くなり、企業への就職が不利になると考えていたためです。しかし実際はその逆であり、専門性の高い知識を身につけるには、専門分野以外の基礎知識が必要となるため、博士課程に進学することで自分の学問の幅が広がることを宇田教授から教えて頂きました。この言葉がきっかけとなり、博士課程でさらなるパワーアップを遂げてから企業に就職しても遅くはないのではないかと思います。博士課程への進学を決断しました。

博士課程での研究テーマは、「酸化物結晶成長時のイオン種の偏析メカニズムの解明」です。修士課程での研究テーマと比べ、今すぐに実用へと繋がる研究ではありませんが、結晶成長のより基礎的な研究であり、「今後、酸化物単結晶のさらなる高品質化を目指すには、いずれ自分の研究が必要になる日がくるはず!」と自負しながら日々研究に励んでいます。

博士課程終了後は、当初の希望どおり、企業への就職に決めました。今年の1月から就職活動を始め、4月には第一志望の化学メーカーから無事内々定を頂きました。就職活動を通して感じたことは、博士課程の学生を募集していない会社があるため、選択肢が修士課程の学生よりも少ないこと、そして、面接時は修士課程の学生以上に自己アピールが必要とされることです。これらは一見不利に思われますが、私の所属する理学研究科化学専攻では、現段階で内定が決まった人数の割合は、修士課程よりも博士課程の方が多という話がなされています。この結果は、博士課程への進学は、就職する際に決して不利にならず、むしろ有利になることの証明ではないかと思えます。企業に勤めた経験のない私が意見するのは恐縮ですが、今後より多くの博士課程修了者が企業に勤め、自身の専門性を問わず活躍することで、博士課程の学生が今以上に企業から必要とされる社会になれば良いと考えています。

3. おわりに

私は、自分で決めた進路に不安がある時は、いつも周囲の方々から背中を押して頂きました。私の拙い体験談が、企業への就職を考えて博士課程への進学に踏み切れないでいる方々へのエールになれば幸いです。

(2009年7月1日受理)

(連絡先: 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1)